

# シェアバイクに乗ってみて

● 放  
眼  
日  
中

ずっと気にはなっていた「支付宝（アリペイ）」をついにインストールしてみた。中国の何人もの友人から「支付宝に繋ぐのはセカンド口座だよ」と厳しく言われた。セカンド口座？ よく分からずに銀行に行くと、既存口座に対してもう一つ開くことが簡単にできた。ただ、その口座には支払い制限などが付いており、明らかにスマホ決済を意識した口座だと分かった。

中国人は便利な物には飛びつくが、当然そのリスクも考えた上で対策も取る。セカンド口座はスマホ決済で詐欺や情報流失により損害が出たとしても、最小限に抑えるための手法だったのだ。ここ数年で銀行口座数が倍増したと聞いていたが、理由はこれだったのか。

支付宝に突然繋いだのは、最近話題のシェアバイクにどうしても乗つ

てみたい、その便利さを体感したいと思っただけだ。既に多くの人が「こんな便利なものはない」と興奮気味に語っているが、そんなに便利なのだろうか」と正直言っただけだった。

北京で地下鉄の出口を出ると、そこには大量の、それも何種類かに分けられた自転車がかざれていた。何となく放置されたように折り重なっているものもあつた。恐る恐るその一台に近づき、あらかじめ登録していたアプリを使い、その自転車のQRコードをスキャンすると、すぐに暗証番号が出てきて開錠、そのまま乗って行くことができた。

これまで5〜10分歩いてきた駅からオフィスや自宅、ホテルへも簡単に移動することができる。しかも、その会社のキャンペーンで当初2日間は無料だというから驚きだ。どこまで乗って行っても無料、支払いは

保証金の2000円（3400円）だけだった。その保証金も中国を離れる際、スマホで簡単に返って来た。乗車料金も通常で1時間1元（17円）ほどと格安。日本の観光地で、1日500円とか1000円で借りるのととはわけが違う。

自転車によつては空気が抜けていたり、ブレーキが利きにくかったりするが、その場合はすぐに横の自転車に乗り換えれば済む話であり、北京の友人たちも「自分で自転車を買うよりよほどよい」と笑いながら話す。そして何より、すぐそこにある自転車に乗れ、どこでも適当に降りられるというのは、想像以上に便利さを感じられるのだ。

だが、当然良いことばかりではない。日本人には笑い話に聞こえるかもしれないが、都会の中国人は自転車の運転に慣れていないのでかなり

危険なのだ。中国人が皆自転車に乗っていた、などというのは前世紀の話。しかも、スマホを片手にスピードを出したり逆走したり。わずか2日間でも何件かの事故を目撃した。

さらには、便利さの象徴である「どこにでも自転車がある」ということは、路上や店舗前などに大量の自転車が溢れ、通行を阻害し、営業妨害かと思われる状況も散見された。既に各地で駐輪規制が始まっていると思うが、あどこでも乗れてどこで降りてよいという便利さを味わった後では、不便だと感じる人もいられるかもしれない。

「本当の便利とは規制のない社会で実感できるもの」である。日本でもサービスが始まったが、まず規制ありきだから、あの熱狂的なまでの便利さを味わうことはまずないだろう。



コラムニスト・アジアソウオッチャー  
須賀 努

すが・つとむ 東京外語大中国語科卒。金融機関で上海留学、台湾2年、香港通算9年、北京同5年の駐在を経験。現在は中国を中心に東南アジアを広くカバーし、コラムの執筆活動に取り組む。